日本芯空構造化社会システムイノベーションと構造改革プログラムアプローチ
――戦後の構造改革史の経験的検証から「第三の開国プログラム」へアプローチ―-

プランド研究所
畔上　統雄

本大会テーマの趣旨説明文は、2008 年の「リーマンショック」と、2011 年東日本大震災及び福島原発事故の、わが国の社会経済システムに与えた多大なネガテイブインパクトの側面と、これに対応する多元多様な社会参加と復興活動で生じたポジテイブな側面に注目、今後も山積する重要課題への対処から、進んで「首都直下型地震」と「南海トラフ地震」など新しい社会ニーズに活かされ、閉塞する社会経済システムのリストラクチャリングに向う発展的広がりが期待されて本大会テーマ「リストラクチャリング」の趣旨を説明、加えて「グローバリゼーション」「リベラルアーツ」「イノベーション」「幸福と不幸」、・「安心と安全」「リスクマネージメント」など近年大会テーマ・キーワード関連の諸成果を踏まえる「リストラクチャリングアプローチ」も求められた。

斯くの如く「本大会テーマ説明文」を理解する、一方で何時も悩まされた「責任者不在」と「真実隠蔽」の印象が拭えずに、下記の項目を大会参加のため予め点検用意した。

1） 持論「戦後社会経済システム芯空構造化トレンド」のリストラクチャリングか！

2） そして［芯空構造＝無責任］をかばい合う“オミコシ担ぎの社会システムの再生か？”

しかし、この「印象」や「危惧」を払拭できなくとも、自ら「職業的専門家」を 50 年間、国の内外業務で、「リストラクチャリング」を「構造改革」と言い換え契約実施してきた実績を携えて、本大会テーマに向け「下記三項目」で自らアプローチする緊急性や重要性を説明報告する意味はむしろ少なくないと判断した。

１．大學法人化時代の「本学会システムの構造改革プロジェクトの創設」にアプローチ
２．韓国・中国が否定の「国歴史認識」に「第三の日本開国プログラム」アプローチ
３．國際循環社会起業創業 30 年累積的資産運用の産業構造改革プログラムアプローチ

そして本大会では上記の 3 項目アプローチを「掲題テーマ」で総括報告する事とした。その中で、2005 年戦後日本社会経済システム原理の転換と構造改革アプローチする三課題の経過、目的、方法などを現状報告する。

実際には、1995 年創業 25 周年記念で自ら主催の「國際シンポジューム」に英国大使と

デンマーク大使館の後援を受け、両国スピーカーの出席、國際ファイナンス代表者からは「ベンチャーキャピタルアプローチ」の案内あり「戦後社会システム構造改革プログラム」にアプローチする討論経過と成果について紹介報告する。そして「ポツダム宣言」履行のアメリカ進駐軍による「わが国リストラクチャリング六段階ライフサイクル」を捉えて、当面するアジア近隣諸国の歴史認識コンセンサス形成で自らの役割設計の検討を試みる。